

令和元年度 輪之内町立大藪小学校 学校評価書

学校の教育目標	<b>よく考え 励まし合って やりぬく子</b> ○よく考える子 ○励まし合う子 ○やりぬく子
経営の重点	子どもに「よりよく生きる力」と「自信」をつける学校 ◎自分や仲間を大切にし、明るいきさつができる子 ◎じっくり考え、正しく判断して、粘り強く取り組む子 ◎ふるさとを愛し、誇りに思う子 ○一人一人を大切にし、深い児童理解を基に実践する教師

※評価欄の記号 評価基準 A(3ポイント):実践し、効果をあげることができた。  
 B(2ポイント):実践し、一応の効果をあげることができた。  
 C(1ポイント):実践し、僅かだが効果をあげることができた。  
 D(0ポイント):実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	今年度の成果	来年度への改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営	100	A	・全教職員が協力して学校経営を行っているため、学校行事を円滑に進めることができた。 ・ノー残業デーや行事の削減、勤務時間内での研修などの取組で時間に余裕ができ、教材研究に使う時間も増えた。 ・成績等、事務処理の面でもスリム化が進められ、自分の都合に合わせて働きやすい雰囲気がある。 ・生活科や家庭科、総合的な学習など、活動の支援を地域人材に協力していただいた。	・今後も同様に必要な行事が教育的に効果の薄い行事かを考えて削減していく。 ・8の付く日も18時退勤を推進していく。 ・国の指針通り月の残業45時間以内を目指す。 ・長期休業中の年休日数を増やす。 ・学校の運営に負担感のない地域との協同活動を進めていく。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	95.8	A	・校内研修として、算数、道徳、外国語の授業研究を行ったことで、新学習指導要領に向けての授業改善につなげることができた。 ・いじめに関する研修、プログラミング研修、防災に関する研修、AEDの研修、外国語研修など、現在のニーズに合わせて必要な研修を実施し、教員としての資質向上に努めることができた。 ・プログラミング研修が積極的に進められ、来年度の実施に向けて準備を進めることができた。 ・センター研修や教科研などで、自身の課題について学ぶことができた。 ・研修で周りの受講生から教えていただいたことを、自校に戻り実践することができた。	・今後も継続して全校研究会等で、大藪小学校の研究内容を統一していく。 ・来年度もいろいろな教科や領域で指導のあり方を学び合う。 ・必要な研修は適宜実施していく。ただし、できる限り会議のない月曜日、土曜参観の午後、長期休業中などに実施し、負担にならないようにする。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	85.4	A	・昨年度の研究発表以降も、継続してペア・グループ交流やフリートーク等の対話活動を取り入れて指導を行い、仲間と関わり合う中で学習させることができた。 ・教えるところは教えるところ、考えるところは考えるところで学習を進めることができた。 ・学期末の「漢字・計算検定」に向けて計画的に家庭学習を課すことにより、基礎学力の定着を図ることができた。 ・水曜日の漢字・計算テストの実施により、基礎的・基本的な知識・技能は概ね習得することができている。 ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けられるように、繰り返し学習することができた。習得が難しい児童については、個別に指導するように努めた。	・対話活動の目的を明確にし、どの場面でもどんな形態で行うとより効果的であるかを考えて工夫する。 ・対話を通してさらに深い学びになるよう、仲間の考えを取り入れた発言ができるようになる。 ・「話す・聞く・反応する力」達成目標をつくり、月1回、現状や問題点を交流し合う。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	85.4	A	・道徳ノートの形式を統一することで、自分の生活や生き方を見つめる場を位置付けることができた。 ・道徳ノートの活用を通して、子どもたちが考えていることをより理解しやすくなり、その記述を道徳の授業に生かすことができた。 ・様々なテーマを設定して仲間と話し合うことを通して、自分の考えを伝えるだけでなく仲間の考えに触れることで、自他を思いやる心を育てることができた。 ・授業研究を通して、道徳授業のあり方について学ぶことができた。	・児童のよい行動について話すことで、自分のよさを自覚することができるようにする。 ・道徳の授業と他教科や普段の生活と関連させて道徳教育を推進する。 ・学年や価値項目、児童の実態などの違いで授業の展開は様々であるため、来年度も授業研究会や実践交流などの場を設け、学び合う。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	91.7	A	・各時間に使うとよい単語やセンテンスを明確にしていることで、それを使って積極的にコミュニケーションをしたり、ゲームを通して外国語に親しんだりすることができた。 ・授業の流れをパターン化することで、子どもたちも見通しをもって行うことができた。 ・英語の全校研究会により、外国語の授業やその工夫について学ぶことができた。	・言葉だけでなく、相手のジェスチャーや表情からも読み取って学習に参加できるように指導する。 ・誰が授業をしても活用できるように、ワークシートや資料等を整えていく。 ・ALTと打ち合わせを十分行う。 ・評価について研修する。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	77.8	B	・地域講師を招いたり、実際に校外に出かけていったりして、地域の理解を深めることができた。 ・ふるさとを教材にした学習が定着している。地域人材の活用も盛んに行われている。 ・単元を通して、自己課題の解決に向かって探究的な活動を主体的に行わせた。	・年間指導計画を見直し、計画的に学習を進める。 ・学年のはじめに自己課題をもたせ、どのように探求していくのか見通しをもてるようにする。そして、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を繰り返す学習を定着させる。 ・児童の疑問や活動したいという思いと活動がずれないように指導計画を立てる。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	91.7	A	・QUの結果から児童が意識的に感じていることを知ることができ、結果をもとにして、児童に働きかけることができた。 ・所属感を高め、安心して生活することができるように、全体で、よい行為を褒めたり、全員で頑張ったことをみんなで喜び合ったりして望ましい人間関係を形成しようと努力した。 ・学級としての問題が起きたとき、話し合いを通して問題解決に向かうように努力した。 ・望ましい人間関係を構築するための社会性を身に付けるためにSSTは効果的だった。	・今後もQU検査からの変容について考え、指導に当たりたい。 ・学級活動の時間を使って、話し合い活動や集会活動、係活動などを行う。 ・SSTを全校一斉に、または、学級・学年で行い、コミュニケーションスキルを高めていく。
【生徒指導】 共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	児童生徒理解の深化を図り、教職員と児童生徒との信頼関係の構築	97.9	A	・学年に関係なく、複数の教師でよい姿を褒めたり、気になる児童に声をかけたりすることで、温かい人間関係作りができ、その中で指導を行うことができた。 ・問題行動があったときは、児童の思いを聞き、児童の思いを大切にしながら指導を行った。 ・生徒指導主事を中心に、全校体制で指導ができている。報告・連絡・相談がきちんとできている。 ・保護者との連絡を密に行いよい姿についても共通理解されている。 ・休み時間などに児童の話に耳を傾けることにより、児童の内面を知ることができた。 ・毎月の「心のアンケート」や「無記名アンケート」で児童が困っていることを早期に発見し、解決することができた。	・心のアンケートで相談があった内容を指導後も見届ける。 ・小さな問題行動でも、組織で素早く対応することを今後も大切にする。 ・保護者への連絡を今後も大切にし、連携して指導に当たる。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	今年度の成果	来年度への改善策
【キャリア教育】 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	勤労観・職業観を育成する体験活動の位置づけと事前・事後指導の充実	75.6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の仕事に責任をもって取り組ませることを通して、仕事に対する考え方や取り組み方を学ばせることができた。また、勤労観をはかることができた。</li> <li>・校外学習や地域講師を活用した授業等により、いろいろな職業について学ぶ場を位置付けた。</li> <li>・外部講師による授業も多く行われた。地域の様々な方と直接接する機会があることが大切だと考える。</li> <li>・道徳等で勤労観を育てた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業等を考えることで、職業観を考えさせていく。</li> <li>・総合や社会科などで学んだことを職業観と関わらせて指導する。特に、校外学習や地域講師から学んだことを勤労観・職業観の観点で児童が言葉で表現できるようにする。</li> <li>・来年度よりキャリアパスポートが導入されるので、どのように扱うとよいかを検討し、効果的に活用していく。</li> </ul>
【健康安全教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善	93.3	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな場面を想定して命を守る訓練を実施することで、自分の命は自分で守るという意識を高めたり、守るための具体的な行動の仕方を学ばせたりすることで、防災意識を高めることができた。また、訓練実施後も職員で振り返って課題を明らかにして改善した。</li> <li>・命を守る訓練を真剣に取り組む姿が多く見られ、児童が自分の命は自分で守ろうという意識が高まった。</li> <li>・朝マラソンが週に2回実施され、体力の向上が図られている。</li> <li>・児童が自然に運動に親しむことができるように、体育の時間にいろいろな運動を仕組んだり、休み時間に一緒に遊んだりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ等を活用し、地域の実態に合った指導になっているか、危機管理マニュアルを見直す。</li> <li>・今後もいろんな場面を想定して命を守る訓練を行う。</li> <li>・中休みは外に出て遊ぶことを継続して指導する。また、学級遊びや遊びのコーナーの工夫し、仲間作りや体力向上を目指す。</li> <li>・安全に生活するためにはどのような行動をするとよいかを考えさせる場を位置付ける。(朝の会・特活・保健・生活・総合等)</li> </ul>
【特別支援教育】 一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築	95.8	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とし、支援の必要な児童への体制を整えることができた。</li> <li>・支援の必要な児童については、個別の支援計画があり、長期的な見通しをもって指導に当たった。</li> <li>・1学期から計画的に配慮が必要な児童に対して、「心のサポーター」を活用することによって、支援の方向を明らかにすることができた。</li> <li>・主幹教諭、SC等の協力を得ながら、指導のあり方を模索した。</li> <li>・担任が密に保護者と連絡を取り合い、児童の姿を共有し、支援のあり方や就学についてなど学校と保護者が話し合いを重ねることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連携して支援していくために、普段から保護者に話をするようにしたり、懇談の機会を利用したりして様子を伝えるようにしていく。また、保護者のご意向も聞いて支援に生かしていく。</li> <li>・一人一人のニーズの合った指導のあり方を学び、実践していきたい。</li> <li>・次年度に向けて、要支援児童の引き継ぎ等を確実に行う。</li> </ul>
【人権教育】 自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり	95.6	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめは絶対に許さないという共通理解のもと、報連相をしっかりと行い、スピーディーに複数の教員で指導に当たることができた。</li> <li>・いじめについては、些細なことでも見逃さないようにし、絶対に許されないことであるという姿勢でどの職員も指導に当たっている。</li> <li>・ひびきあい集会や日常の取組を通して、自分そして周りの人を大切にするという心を改めて考えることができた。</li> <li>・人権感覚を身につけられるように、日頃から「いじめ」につながるような発言や行動があったときは、なぜだめなのかをみんなで考えたり、場合によっては教えたりするようになった。</li> <li>・生徒指導交流を行うことで、全教職員が情報を共有することができているため、全職員で見守ったり声をかけたりすることができている。</li> <li>・心のアンケートで児童が困っていることを早期に発見し、解決することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のアンケートで相談があったことをすぐに対応することや、指導後も見届けていくことを、今後も大切にすること。また、問題行動が他学年に関連して起きている場合もすぐに対応する。</li> <li>・児童の仲間を大切にしたい言動とその価値を、さらに学級や全校に広めることを今後も継続し、正しいことやよいことを意識して生活するようにしていく。</li> </ul>
【ICT教育】 児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。	ICTを有効活用した学習活動の充実	95.8	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを活用して授業をすることができた。また、児童用のタブレットを使って一人一人が学習することができた。</li> <li>・タブレットなどを活用し、算数の計算問題などを解かせることができた。また、体育の時間に「マット運動をしている自分の姿」を見せたり、教科で提示資料を活用したりすることによって、学習への意欲化が図られた。</li> <li>・理科、算数、国語、総合など、ICTを利用して授業する機会を増やせた。</li> <li>・各学年の先生ごとに、プログラミングの実践を進めている。</li> <li>・情報モラルの取組期間があると、子どもたちも保護者も情報について考えるよい機会となる。</li> <li>・授業においてタブレットの活用やプログラミング教育の位置付けが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童用のタブレットを有効活用していく。</li> <li>・ICT活用の実践を学び合う。</li> <li>・ICTの方が使い勝手がよい物もあるが、資料の提示など、紙が優れている場合や時間の短縮になる物もあるので、使い方の工夫をしていく。</li> </ul>
学校関係者評価				<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が率先してあいさつをしていてよい。</li> <li>・地域の人々がスクールサポーターとして学校の教育活動に参加することで、児童の様子がよくわかり、学校と地域の連携を取りやすくなっている。</li> <li>・キャリア教育として、今、取り組んでいることや学習していることが、大人になって役立つということを教えてほしい。何のために行うのか動機付けが大切である。PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を子どもの中にも取り入れてほしい。</li> <li>・小学生にボランティア活動をする場を増やしてほしい。</li> </ul>	